

2. 計画条件の把握と整理

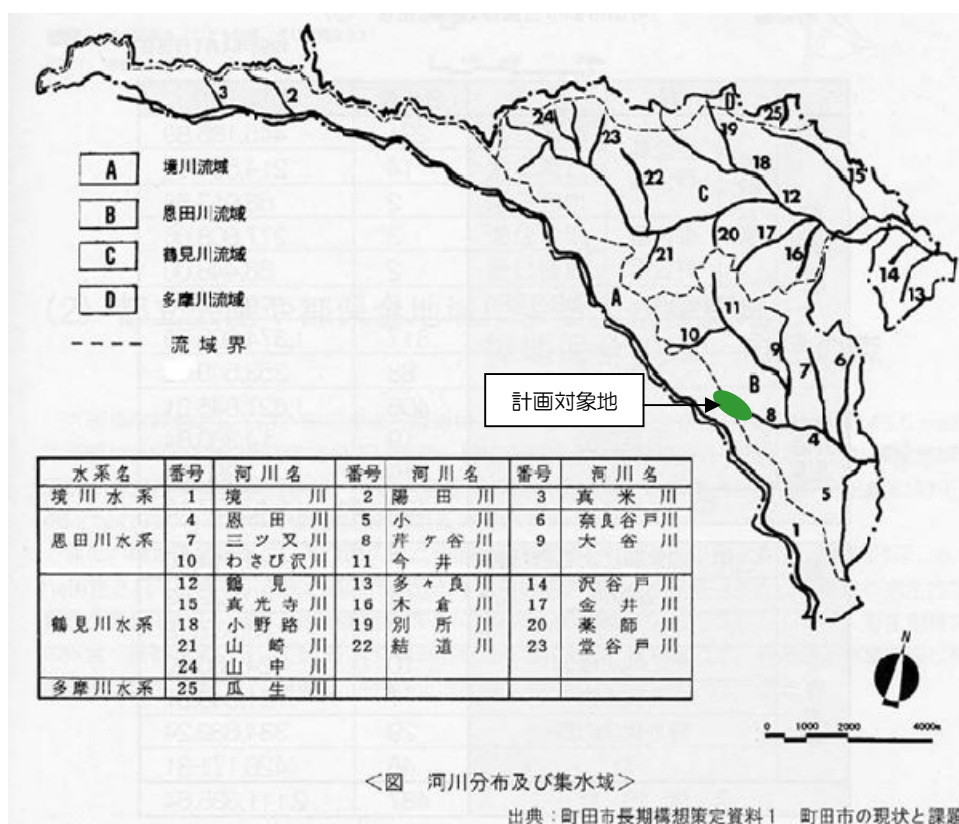
(1) 計画対象地及びその周辺の状況

①自然概況

1) 地形及び水系

町田市は、八王子市、多摩市、稲城市とともに横浜市にかけて広がる多摩丘陵の北に位置している。計画対象地は、起伏に富んだ多摩丘陵に深く入り込み、鶴見川水系恩田川の支流（かつて「芹ヶ谷川」と呼ばれていた）の浸食によって形成され、西北方向から南東方向に細長く伸びた谷戸地形により構成されている。

■計画対象地の水系と位置



谷戸は上流部（公園西北側）で約 30～40m、下流部（公園東南側）で約 60～70m の幅をもち、台地部と谷底部の標高差は約 15～20m である。斜面林であるために、自然地として残されてきた。

谷戸は公園の西北端小田急線の土堤で終わるが、東電鉄塔斜面下で湧水が確認される。この湧水が最上流部にあたり、やや下流部にあたるレストコーナー下、花見広場付近でも確認できる。さらに警備員室西側広場奥の斜面下からの湧水はあずまや脇を流れて水路に合流している。冒険広場奥の斜面樹林下でも確認される。

東電鉄塔斜面下の湧水



花見広場付近の湧水



湧水が確認できるあすまや裏の斜面



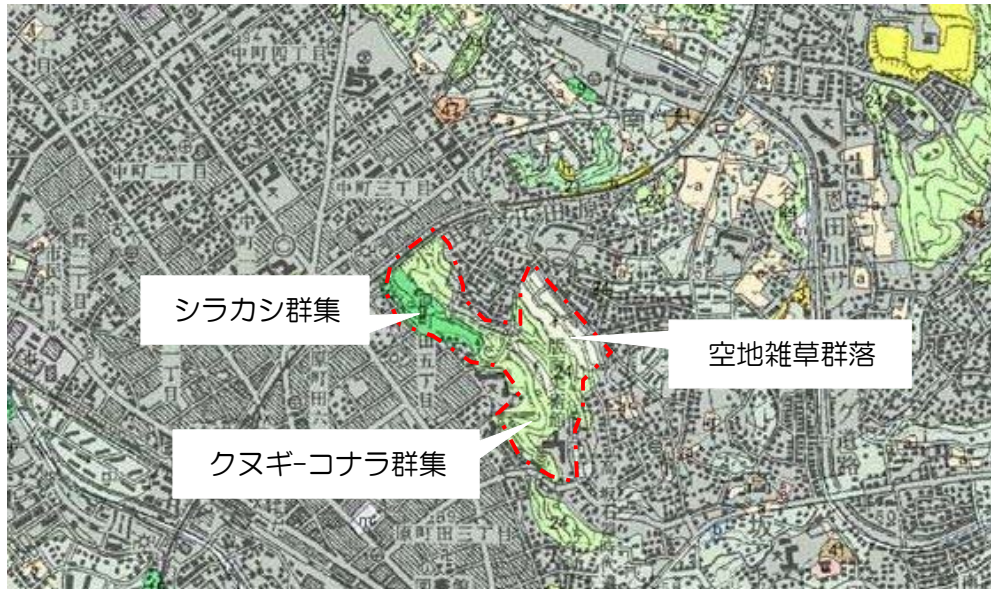
冒険広場奥の湧水



芹ヶ谷公園に源を発する湧水は、公園内の自然湧水と合流しながら南東に流れ、町田市立国際版画美術館の東から暗渠に入り、「原町田ふるさとの森」の北東端を南東に流れ、熊野神社（町田市高ヶ坂）の水路に左岸から合流している。暗渠に入る前の湧水は、せせらぎで利用している。

2) 植生

計画対象地の植生は、殆どがクヌギ-コナラ群集で、北西端はシラカシ群集となっている。
また台地部の上の平坦地は、空地雑草群落（芝生）となっている。



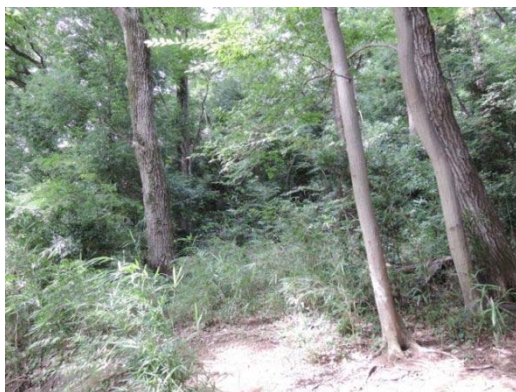
出典：自然環境保全基礎調査 植生図（環境省）

樹種は、ヒサカキ、シュロ、アオキ、ツバキ、イヌツゲ、ヤツデ、シラカシ、アラカシ、ネズミモチ、ヤブツバキなどの常緑樹やクヌギ、コナラ、エゴノキ、イヌシデ、ミズキ、ケヤキ、ムクノキ、エノキ、イロハモミジ、ヤマザクラ、クワ、ムラサキシキブ、ヤマブキ、ガマズミなどの落葉樹の他一部でスギ、サワラ植林も見ることができる。

草本層としてはアズマネザサが繁茂している。

また植栽木として、ソメイヨシノ、ユリノキ、ケヤキ、クスノキ、キョウチクトウ、イロハモミジ、ツバキ、コブシ、ウメ、ツツジ類、アベリア、アジサイがある。

多目的広場東斜面地



虹と水の広場東斜面地



なお周辺が農地として利用されていた頃は、薪炭林としてクヌギ、コナラ、イヌシデ、ミズキなどは利活用のために通常 15 年程度（胸高直径 10cm 程度）で伐採していたが、昭和 30 年代以降の、いわゆるエネルギー革命でガスが家庭に普及し始めてからは薪炭需要が減り、伐採利用されることなく経過してきたため、現在では胸高直径 30cm を超える樹木も見られる。

3) 土地利用

芹ヶ谷公園の西北端の谷部は、1927 年（昭和 2 年）に開通した小田急線の線路敷設により造成し、現在の状況になったと考えられる。

1936 年（昭和 11 年）には、町田駅周辺で宅地化を意図した耕地整理事業が行われ、1951 年（昭和 26 年）には、町田市立第二小学校が開校した。

現在は、市街化が進み、公園に隣接する斜面部あるいは台地部は密度の高い住宅地となっている。

町田街道から計画対象地西側の用途地域は、近隣商業地域及び第二種中高層住居専用地域であり、商業施設ビルや中高層マンションが見られる。

一方計画対象地東側の用途地域は、第一種低層住居専用地域（都営跡地は第一種中高層住居専用地域）であり、主に低層住宅となっている。

1987 年（昭和 62 年）、町田市立国際版画美術館が開館し、公園にとってシンボルとしての美術館の存在と、芸術にふれる場としての緑豊かな公園の存在が、互いに魅力となって良い相乗効果を生んでいる。

町田市立国際版画美術館



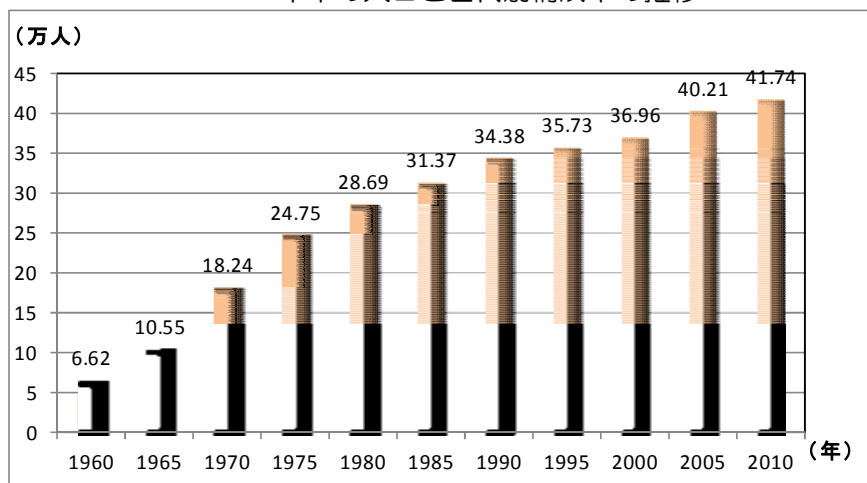
②社会概況

1) 人口

町田市の人口は、2015 年（平成 27 年）4 月 1 日現在、188,955 世帯、426,659 人である。（住民基本台帳）

町田市は、新宿、横浜より鉄道で約 30 分という都心への交通利便性もあり、郊外住宅地、商業地として急激な発展を遂げ、人口が増加した。その推移をみると、1965 年（昭和 40 年）頃より増加が始まり、現在も増加傾向が続いている。

■本市の人口と世代別構成率の推移

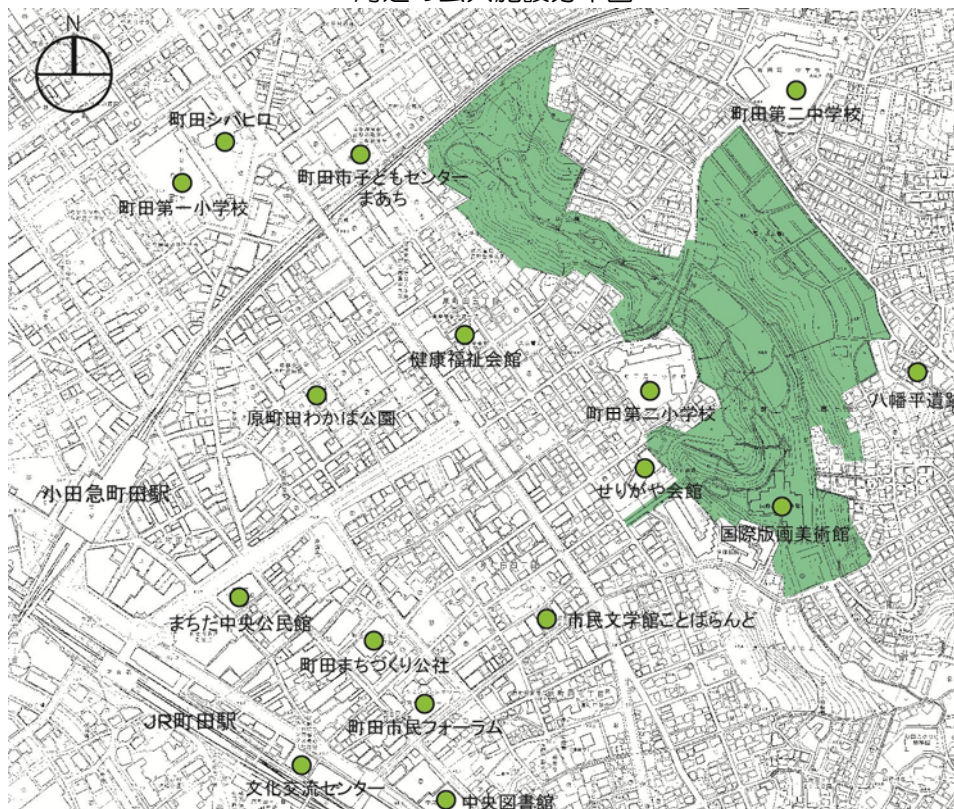


出典：国勢調査

2) 周辺の公共施設分布

町田駅から計画対象地周辺に至る区域に立地する主な公共公益施設は、下図に示すとおりである。町田市民文学館ことばらんどを始め、市立中央図書館、町田市民フォーラム、まちだ中央公民館などがあり、文化施設やホール・会議室等を有する文化活動、市民活動の拠点施設が多い。

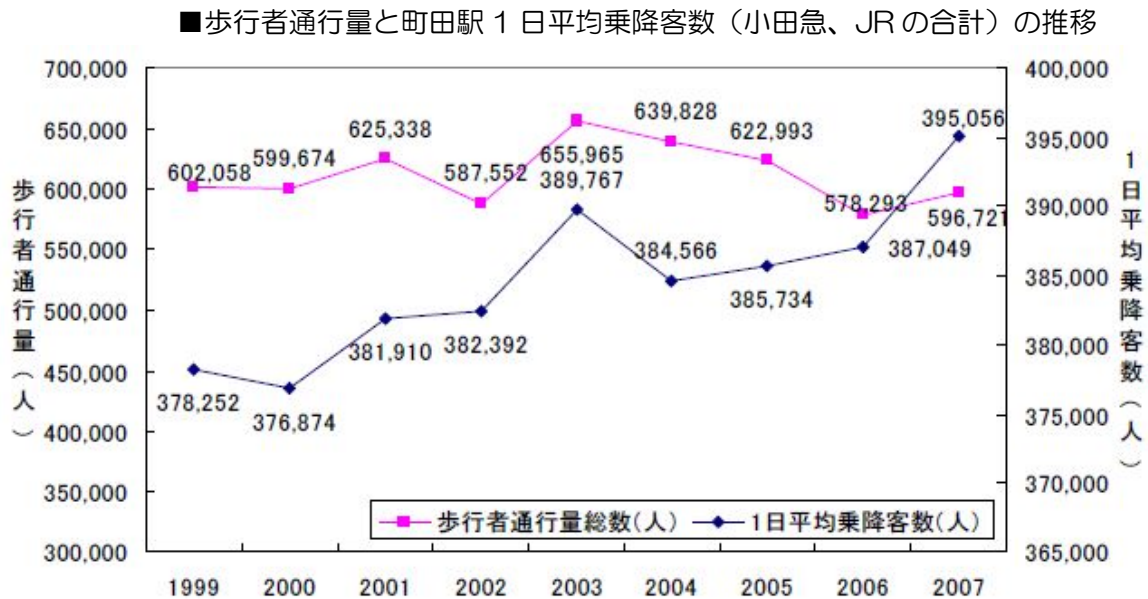
■周辺の公共施設分布図



3) 駅前周辺の歩行者交通量

町田駅周辺の歩行者通行量（調査地点 27 箇所の通行量総数）は、約 60 万人前後で推移している。しかし、2004 年以降、町田駅（小田急・JR）の 1 日平均乗降客数の増加に反して、歩行者通行量は減少している。

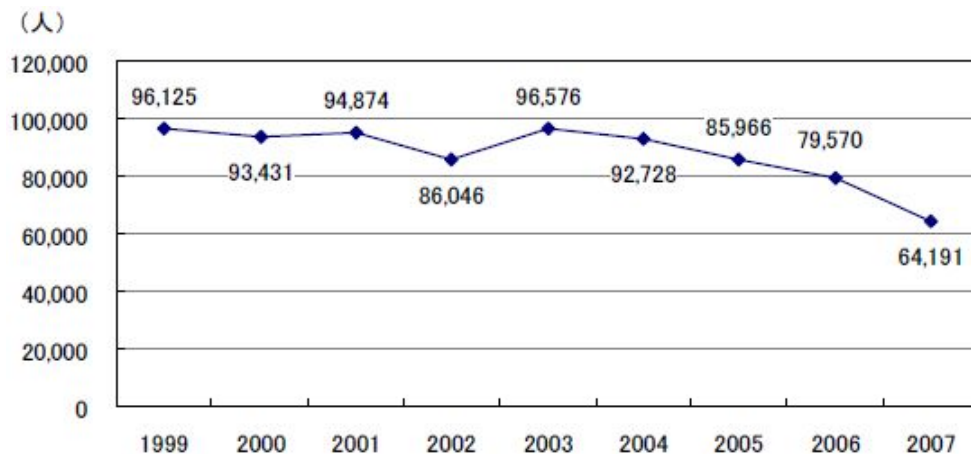
また、地点ごとの推移を見ると、駅前通りから町田駅東口周辺、文学館通りに至る調査地点（7 箇所）において、2003 年前後から歩行者通行量が急速に減少している。これに対しペDESTリアンデッキ上の通行者が増加傾向にあることから、鉄道駅の乗り継ぎ客が中心市街地に来ていないことがわかる。



出典：「町田市中心市街地活性化基本方針」（2009 年 12 月／町田市）

■駅前通り（ペDESTリアンデッキ上を除く）・文学館通り（※）歩行者通行量

（※）イコービル前、みずほ銀行前、土方園前、大塚ビル前、JR 町田駅東口前、西友前の 7 つ地点合計値



出典：「町田市中心市街地活性化基本方針」（2009 年 12 月／町田市）

③人文的概況

町田市は多摩丘陵に位置し、谷戸から流れ出る湧水や周囲から集めた雨水で恩田川、鶴見川などが形成され、早くから人は住み着いたといわれている。

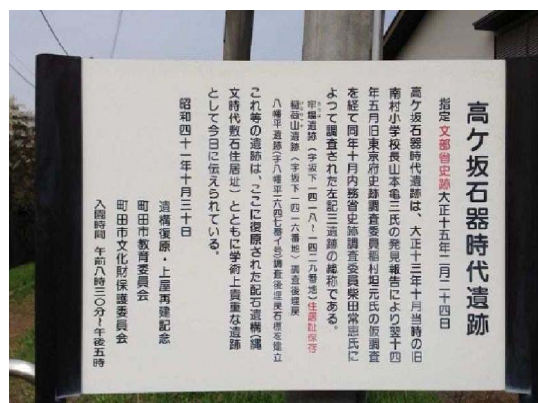
町田市小山町にある田端環状積石遺構は、ストーンサークル・集落跡・集団墓地と知られる縄文時代中期の遺跡で、1971年（昭和46年）3月29日に東京都指定史跡に指定された。遺構は盛土保存され、ストーンサークルのレプリカを置いている。

計画対象地に近接した高ヶ坂地区には高ヶ坂石器時代遺跡（縄文式時代の集落跡）があり、丘陵地における住居跡発見の第一号として1926年（大正15年）に国の史跡に指定されている。

高ヶ坂石器時代遺跡は、鶴見川上流の恩田川沿いの低段丘上にあり、牢場、稲荷山、八幡平の3つの遺跡からなる。牢場遺跡からは縄文時代中期末（約4000年前）の敷石住居跡、稲荷山遺跡からは縄文中期から後期の配石遺構、計画対象地に最も近い八幡平遺跡からは縄文時代早期（約8000年前）の竪穴住居跡と中期末の敷石住居跡が発見された。

覆屋がつくられ、唯一保存公開されている牢場遺跡の住居跡は長径が西南5m、短径が3.5mである。

稲荷山遺跡は南西部が道路で切られており、断面に土器片、礫がみられたが、複雑で不整形な配石遺跡が確認されただけで、遺構の状況は不明である。八幡平遺跡では、直径3.45mの円形プランの敷石住居跡が発掘されている。



高ヶ坂石器時代遺跡の説明板

また、町田市には、中世から近世にわたる歴史街道がある。中世は鎌倉と北関東を結ぶ鎌倉街道の要衝として、近世には江戸後期から明治期にかけて多摩・甲州・上州などと横浜との交易に用いられた絹の道・八王子街道（神奈川往還）の一部である町田街道があり、八王子と横浜のほぼ中間となる原町田がその要衝として栄えた。

④景観の概況

町田市は多摩丘陵に属し、鶴見川、境川、恩田川やその支流は、起伏に富んだ丘陵に深く入り込み、その浸食によって形成された谷戸が発達した地形が市域のほぼ全域で見られる。

芹ヶ谷公園は、このような町田市の地形的特性を良くあらわし、その景観的特性を残しながら、地域のシンボルとして、まとまりある緑の景観を形成している。

また、芹ヶ谷公園は台地面より約20m低く、さらに斜面は樹林に覆われているため、芹ヶ谷公園周辺の住宅、マンション、学校などの建築物が公園内部からはほとんど視認できず、公園として良好な内部景観が維持されている。

（2）上位関連計画等

上位・関連計画における芹ヶ谷公園を含む公園緑地の位置づけは、下記の通りで、計画内容から関連する項目を抜粋・整理する。

①上位計画

町田市基本計画 「まちだ未来づくりプラン」 「町田市新5カ年計画」 ＜2011年策定＞	基本政策3 みどり豊かなまちをつくる 【めざす姿】 ●まちなかの公園や緑地など、市民が身近にみどりを実感できる環境が整備されている。 ●大規模な公園や緑地、良好な水辺環境が残され、市民がみどりとふれあい、憩うことができています。 ＜政策1＞ 身近なみどりを増やす ＜政策2＞ まとまりのあるみどりを保全する 【政策の取り組みの方向】 市内に残された貴重なみどりを将来に引き継ぐため、緑地や農地の保全に取り組めます。 ■重点事業1 みどりの拠点整備（基本計画体系Ⅳ－3－2－2） ＜事業概要＞ ・市内のみどりの拠点を充実させるため、薬師池公園周辺をはじめとする公園や緑地の整備を進めます。
町田市緑の基本計画 ＜2011年改定＞	【緑の将来像】 「町田の環境文化を育む多摩丘陵・里山回廊の保全・再生・活用」 ●町田の緑の将来像図に位置づけた18箇所の「水と緑の拠点」として、以下のような姿を目指します。 ⑭ 芹ヶ谷・かしの木山（水と緑の拠点） ＜芹ヶ谷公園（風致公園）、かしの木山自然公園などを中心とした拠点＞ ●町田駅東側の市街地にありながら、豊富な湧水や雑木林等の豊かな自然環境に恵まれた芹ヶ谷公園と市街地に残るまとまった雑木林を有するかしの木山自然公園、更には敷地内に多くの緑を残す昭和薬科大学周辺などから構成される拠点です。

②各種関連計画

町田市都市計画マスタープラン ＜2013年改定＞	【テーマ別のまちづくりの方針】（町田中心地域） ア）町田らしい都市文化を育成する中心市街地の形成 ＜にぎわいと交流の拠点形成＞ （3）芹ヶ谷公園を活かした中心市街地の回遊の核の育成 ●芹ヶ谷公園とその隣接する都営跡地は、中心市街地に近接する立地、保全されている谷戸地形や湧水を活かしつつ、来街者や住民が憩い、楽しめる空間や見通しがきく明るい空間へと再生を図ることにより、中心市街地の回遊の核として育成していきます。 （6）ゆとりある道路空間を活かしたにぎわいの創出と芹ヶ谷公園へのシンボルロードの形成 ●中心市街地から芹ヶ谷公園の玄関口へのシンボルロードとして、原町田大通り（町3・4・11）の延伸整備を検討し、駅から通り沿いの店先を楽しみながら公園に向かうことができるような通りの形成をめざしていきます。 （7）文化施設の連携強化と文学館通りを中心としたゆったり歩けるまちづくり ●文学館通りは、町田市立国際版画美術館へのアクセス路として、子どもからお年寄りまでだれもがゆったりと安全に歩ける空間とするため、地元と協働して、歩道の拡幅や無電柱化、広場空間の整備を進めます。 ●文学館通り周辺にある文化施設同士の連携強化を図るほか、土地の高度利用や建物の共同化などによる多世代が交流できる機能や居住機能などの誘導を図り、さまざまな人々が文化や芸術に親しみながら暮らし、楽しむことができる通りの形成をめざしていきます。
-------------------------------------	--

第二次町田市環境マスタープラン ＜2012 年策定＞	【望ましい環境像】 「水とみどりとにぎわいの調和した環境都市 まちだ」 施策 2. 自然環境と歴史的文化的環境の保全 2-[1]みどりを守り、増やし、育て、活かす取り組みを進めます。 施策① 緑地の現状を把握し、公表します。 施策② みどりの保全を進めます。 2-[2]水辺の保全・活用と水循環の健全化を進めます。 施策① 水辺環境を保全します。 施策② 湧水地の保全、地下水保全のため、水源涵養域の保全、雨水の浸透を図ります。 施策③ 町田の水辺の魅力を発信します。
町田市景観計画 ＜2009 年策定＞	【地域別の景観づくりの方針】～原町田地域～ ＜芹ヶ谷公園や地域の北側に多いまとまりのある緑＞ ●芹ヶ谷公園は、豊かな樹木に囲まれ、駅の近くにありながら豊かな自然の風景と出会えます。町田市立国際版画美術館と公園内の緑が一体となり、多くの市民の憩いの場となっています。 ●まとまりのある緑は、地域のシンボルとして維持・保全し、それらを活かした景観拠点をつくります。 ＜「商都」としてにぎわう町田駅周辺＞ ●文学館通りには「市民文学館ことばらんど」があり、芹ヶ谷公園内の町田市立国際版画美術館へつながる通りでもあります。 ●文学館通りは、文学館や町田市立国際版画美術館を結ぶ通りとして、文化的で人に優しい通りづくりにより、中心市街地の回遊性を高めます。
町田市中心市街地活性化基本計画 ＜2009 年策定＞	【基本的な方針】 ＜憩い＞ ●にぎわいある商店街、町田市民ホールや町田市民文学館等の文化施設、中央図書館等の公共施設など、さらに中心市街地周辺の町田市立国際版画美術館、芹ヶ谷公園、境川など、中心市街地内外の要所をめぐりながら、街を楽しむことができるよう、歩きやすい歩行空間、休憩や交流に資する滞留空間を創出し、回遊性の高い歩行空間ネットワークを形成します。 ＜集う＞ ●既存の文化施設、市民の活動を有機的に結びつけ、活発な文化活動・市民活動を支援する拠点としての役割を強化するとともに、店舗や事業所の誘致、町田ブランドの形成等を通じた中心市街地の情報発信機能の充実、町田駅東口から芹ヶ谷公園、町田市立国際版画美術館にかけての回遊ルートづくりにあわせた周辺地域のまちづくりなどを通じ、創造性のある文化・交流拠点としての機能を高め、人々が集えるまちをつくります。 ＜潤い＞ ●八王子から三浦半島に至る多摩・三浦丘陵に位置する町田市は、北部丘陵をはじめ市域に豊かな自然環境が存在しており、中心市街地周辺にも芹ヶ谷公園の緑、境川の水辺のように自然が感じられる場所があります。中心市街地を取り巻く緑や水辺の環境に親しむことができ、市民、事業者、市の協働による花や緑にあふれるまちづくり、昔ながらの老舗店舗等をいかした景観づくりなどにより、周辺の豊かな自然環境と商都の界限性が調和した、潤いあるまちをつくります。

町田市中心市街地整備構想 ＜2014 年策定＞	【現状と課題】 （オ）芹ヶ谷公園等へのアクセス ●芹ヶ谷公園は町田駅から至近の距離にありながら谷戸の地形を残しており、市民に親しまれている公園であるが、町田駅からのアクセス路が未整備であり、来街者への知名度が高いとは言えない。歩行者ネットワークを整備するなど、芹ヶ谷公園へのアクセス性を向上させ、回遊性を高めていく必要があります。 【目標と方針】 ③誰もが快適に歩けるまちづくり （エ）芹ヶ谷公園等をつなぐ歩行者ネットワークの形成 ●芹ヶ谷公園までの快適なアクセス路の整備 ●ネットワークの整備の方策 ●芹ヶ谷公園までのシンボルロードの形成 誰もが安心して、ゆったりと時間を過ごせる回遊性、滞留性に富んだ、憩いあるまちをつくります。
（仮称）町田市立国際工芸美術館整備基本計画 ＜2014 年策定＞	【計画策定の3つの背景】 ●さらなる「まち」の魅力を発掘、創造発信していく必要があります。 ●豊かな自然環境と優れた交通利便性をもつ町田は、さらなる都市の魅力を獲得しなければなりません。 ●文化芸術に触れる機会や場をさらに充実させる必要があります。 【施設計画の考えかた】 （１）周辺施設と連携した地域回遊動線の計画 中心市街地と芹ヶ谷公園をつなぐ結節点として、中心市街地からのアプローチの工夫、周辺地域を含むサイン計画を行い、施設の場所がわかりやすく、来館者の訪れやすい施設を目指します。また、車やバスでの来館の利便性にも配慮するとともに、中心市街地からの徒歩来館者の利便性についても最大限考慮します。 （３）環境や景観に配慮した施設づくり 町田市公共事業景観形成指針に基づいた計画により、周辺景観との調和を図ります。また省エネルギー性能の高い施設づくり、環境への影響が少ない工法や建設機械の採用等、環境負荷低減化に努めます。 【来館者目標の設定】 年間来館者数目標を 10 万人とします。

（３）芹ヶ谷公園の利用概況

芹ヶ谷公園は、町田市を中心市街地に近接し、豊かな自然と多摩丘陵の郷土景観を残し、町田市を代表する公園の一つとして市民に広く親しまれている公園である。

春は「多目的広場」周囲に植栽されたソメイヨシノ、斜面に見られるコナラ、クヌギなどの新緑、秋には「芝生広場」、「大池」周辺のイロハモミジ、ヤマモミジなどの紅葉などを目当てに多くの人で賑わっている。特に谷戸の地形を利用した公園であることから、現在も斜面下部の湧水が流れをつくり、風情ある水辺の景観が人々の目を楽しませている。

公園を利用する年齢層も多様で、斜面樹林地を活かした「冒険遊び場」には多くの子どもが集まり、自然の中で工夫を凝らした様々な遊びが展開されている。

自然が豊かで落ち着いたたたずまいから、中高齢者の毎日の散歩、小中学生のボール遊びや、幼児等の水遊び、休日には若いカップルの散策、親子連れのランチなど様々な利用がされている。

町田市立国際版画美術館が完成した 1987 年以降は、イメージを膨らませるアート作品、オブジェを展示するようになり、豊かな自然とアートな雰囲気誇る公園として知られるようになった。利用者也市の内外、他県からの利用者も増え、美術館見学と併せて公園内を散策する姿も多く見られるようになった。

また、市街地に近いというアクセスのしやすさから、近年はイベントの会場として利用されるようになり、町田さくらまつりや、町田時代祭りなど町田市を紹介する役割も担っている。

【イベントの実施状況】

●町田さくらまつり

町田さくらまつりは、例年 3 月下旬～4 月上旬のさくらの開花時期に市内全域で開催され、10 万人規模の来場者を誇っている。そのメイン会場の 1 つとして、芹ヶ谷公園会場ではオープニング式典を行うほか、交流都市コーナー、模擬店コーナー、復興支援コーナーなど各出店を楽しむことができる。また、ステージ、大道芸などが実施され、例年たくさんの家族連れなどで賑わう。



町田さくらまつりの開催風景

2015 年度は以下のとおり開催した。

【開催日時】

2015 年 3 月 28 日(土)～3 月 29 日(日)

10:00～16:00

【会場】

芹ヶ谷公園多目的広場

【主催】

町田さくらまつり実行委員会

（事務局：町田市経済観光部産業観光課、町田市観光コンベンション協会）

【来場者数】

3/28(土) 16,000 人、3/29(日) 10,000 人、計 26,000 人

（29 日は荒天により 15:00 過ぎに終了）

●ゆうゆう版画美術館まつり

芸術の秋 10月に、町田市と国際版画美術館友の会が開催。国際版画美術館前と館内の各室を使って様々なイベントを展開している。芸術を愛する市民のサークル等による「チャリティ・アートバザール」や近隣大学の学生による「アート・イベント」をはじめとして、館内での「木版画摺り体験」や「キッズ・アートスペース」、講演会やプロムナードコンサートなどを実施し、広く市民に国際版画美術館に親しみを感じてもらおう祭りとしている。

2015 年度は以下のとおり開催した。

【開催日時】

2015 年 11 月 7 日（土） 10:00～15:30

8 日（日） 10:00～15:00

【会場】

芹ヶ谷公園国際版画美術館前及び国際版画美術館内

【主催】

町田市文化スポーツ振興部国際版画美術館、町田市立国際版画美術館友の会

【来場者数】

4,800 人



●町田時代祭り

町田時代祭りは、かつて町田市域で活躍した坂東武者や農兵隊を再現し、中心市街地で時代行列、芹ヶ谷公園多目的広場で流鏝馬（やぶさめ）、古武道演武などを行う。芹ヶ谷公園内では、名産品などの模擬店も楽しめる。例年市内外から多数の観光客が訪れ、町田の秋のイベントとして定着している。

2015 年度は以下のとおり開催した。

【開催日時】2015 年 10 月 25 日（日）

【会場】芹ヶ谷公園多目的広場ほか

【個別行事】

11：00 時代行列（町田商工会議所～原町田大通り～芹ヶ谷公園）

12：00 開会式（芹ヶ谷公園）

12：30 流鏝馬（芹ヶ谷公園）

14：00 古武道演武（居合抜刀・柔術）（芹ヶ谷公園）

15：00 砲術（芹ヶ谷公園）

【主催】

町田時代祭り実行委員会

【来場者数】

20,000 人（内訳 時代行列 4,500 人 芹ヶ谷会場 15,500 人）



町田時代祭りの開催風景



同左（流鏝馬の様子）

(4) 関連施設の利用状況

①町田市立国際版画美術館

町田市立国際版画美術館は、芹ヶ谷公園内の南側に 1987 年に開館した。延床面積 7,840 ㎡で、版画を中心とした美術作品、資料約 28,000 点の収蔵を誇るわが国では珍しい版画美術品を収集、展示を目的とした美術館である。年間利用者は、約 15.5 万人（2014 年）である。

■町田市立国際版画美術館の利用者数の推移（単位：人）

年度	総数	企画展示室 (市民美術展 も含む)	常設展示室	ハイビジョン ギャラリー	講堂等	アトリエ	工房	市民展示室
2005	136,831	44,572	27,384	7,656	5,889	4,148	2,815	44,367
2006	161,233	53,638	36,852	10,326	5,752	4,535	2,940	47,190
2007	159,083	48,623	40,197	11,178	5,499	3,982	2,678	46,926
2008	154,345	52,036	31,674	8,893	8,204	4,200	2,718	46,620
2009	166,846	58,652	35,119	9,830	6,749	4,120	2,507	49,869
2010	157,081	57,015	32,709	9,173	7,070	3,946	2,455	44,713
2011	149,724	59,323	35,798	3,220	5,364	4,503	2,475	39,041
2012	184,707	74,101	41,365	10,703	7,988	4,042	2,472	44,036
2013	159,989	62,805	37,696	9,115	6,433	3,549	2,528	37,863
2014	154,247	60,856	35,269	9,001	6,809	3,342	2,220	36,750

■町田市立国際版画美術館の建築概要

部 門	室 名	面積(㎡)	部 門	室 名	面積(㎡)	階 数	備 考	面積(㎡)
展示部門	常設展示室	229.0	普及部門	ビデオコーナー	44.9	3階	(屋根裏1648.9含む)	2078.2
	企画展示室1	682.0		アトリエ	86.4	2階		2622.7
	企画展示室2	292.0		版画工房	131.7	1階		2783.7
	(小 計)	1203.0		講師控室	12.3	地階		355.6
収蔵部門	前室	27.0		暗室	24.0			
	収蔵庫	399.5		腐蝕室	18.1	合 計	(延床面積)	7840.2
	図書資料室(1)	41.3		アトリエロッキングルーム	34.0			
	図書資料室(2)	115.1		講堂	230.1			
	ネガ保管室	38.9		映像室	21.3			
	(小 計)	621.8		市民展示室	252.0			
学芸部門	学芸員室	51.5		同前室	24.7			
	美術資料閲覧室	21.5		控室	19.5			
	写真室	38.0		ロビー	19.0			
	暗室	13.0		ハイビジョンギャラリー	26.0			
	倉庫	9.1		(小 計)	944.0			
	整理室	108.9		エントランスホール	361.6			
	(小 計)	242.0	共通部門	ロビー	284.3			
管理部門	館長室	32.0		喫茶室	59.4			
	応接室	33.2		荷卸室	70.5			
	会議室	56.0		荷解室	170.1			
	事務室	62.8		休養室	13.4			
	受付控室	19.2		更衣室	28.0			
	清掃員室	16.6		その他	3600.0			
	警備室	22.3		(小 計)	4587.3			
	(小 計)	242.1		合 計	(屋根裏1648.9含まず)			
					6191.3			

竣工：1986年8月

資料出典：文化振興課資料、建築概要は市HP

②町田市民文学館ことばらんど

町田市民文学館ことばらんどは、1 階に図書館機能、2 階に展示機能、3 階に施設貸出機能を持ち、町田ゆかりの文学者たちの著書などを所蔵する施設で、2006 年 10 月に開館した。

中心市街地内にあり、子どもから大人まで幅広い層から親しまれ、年間約 6 万 4 千人（2014 年度）利用者がいる。

町田駅から芹ヶ谷公園及び町田市立国際版画美術館へのルートの途中にあることで、相互的な利用傾向があると考えられる。

■町田市民文学館ことばらんどの利用状況

年度			図書館業務				展覧会		会議室		保育室	
	開館日数	入館者数	貸出冊数	貸出人数	団体貸出冊数	団体貸出件数	開催日数	観覧者数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
2006	125	14,955	1,771	1,003			114	8,240	759	8,278	32	418
2007	303	43,391	4,369	2,447	102	34	255	13,566	2,742	28,680	88	1,337
2008	302	48,961	5,731	2,843	184	62	221	17,331	3,191	33,779	103	1,401
2009	302	61,555	5,810	3,127	106	48	246	19,581	3,350	41,757	108	1,558
2010	301	53,903	4,961	2,688	223	100	216	19,226	3,492	36,967	119	1,859
2011	300	59,084	5,280	2,786	143	55	235	26,231	3,632	39,482	121	1,817
2012	302	64,773	6,206	3,053	194	68	232	22,148	3,736	37,597	173	2,136
2013	303	66,971	8,304	3,630	199	71	228	14,902	3,763	40,676	169	1,903
2014	302	63,788	8,985	4,077	292	96	226	22,259	3,723	38,874	163	1,930
合計	2,540	477,381	51,417	25,654	1,443	534	1,973	163,484	28,388	306,090	1,076	14,359

資料出典：生涯学習部図書館